



1年の無火災を誓って

平成 30 年消防出初式

「平成 30 年松前町消防出初式」は 1 月 14 日、松前公園で行われ、消防団員などの消防関係者約 500 人をはじめ、地域住民が参加しました。

オープニングセレモニーでは、松前中学校吹奏楽部が演奏したほか、松前町少年消防クラブ員が防火標語を掲示。「火の用心 ことばを形に習慣に」と大きな声で防火を呼び掛けました。

式典では、消防団員が入場行進した後、功績のあった団員を表彰。代表して第 4 分団分団長の八城秀樹さんが「消防精神にのっとり、任務の重要性を認識し、業務に精励します」とあいさつし、最後は一斉放水で締めくくりました。

参加者は式を通じ、この 1 年の無火災を誓うとともに、火災予防意識を高めていました。

表彰者は次の通りです（敬称略）。

▶知事表彰

第 4 分団 分団長 八城 秀樹
第 1 分団 分団長 影浦 博隆
本 団 団員 木下 公子

▶愛媛県消防協会長表彰

< 功績章 >

第 8 分団 分団長 関谷 一郎

< 勤続章 >

(20 年以上)

第 3 分団 団員 古川 栄一

(15 年以上)

第 1 分団 団員 武智 勇治

第 5 分団 団員 佐伯 斉弘

第 8 分団 団員 友田 秀樹

(10 年以上)

第 2 分団 団員 大西 秀和

第 4 分団 団員 一色 紀孝

第 5 分団 班長 谷岡 達也

第 6 分団 班長 日野 嘉人

第 8 分団 班長 米澤 滋

第 9 分団 班長 宮崎 雅彦

< 規律章 >

第 9 分団 団員 吉岡 勇二



④団旗のもと、入場行進を行う ⑤松前町少年消防クラブ員による防火標語掲示 ⑥一斉放水を行う消防団員

< 家族内助の功労者 >

第 2 分団副分団長夫人 高木 結香

第 4 分団団員夫人 西村 恭江

第 7 分団団員夫人 伊賀上紀子

< 親子消防団員表彰 >

第 3 分団 団員 武井 政彦

第 3 分団 班長 武井謙太郎

▶町長表彰

< 個人表彰 > (消防団員歴 1 年以上)

第 1 分団 団員 上田 英茂

第 2 分団 団員 丸久保信介

団員 穴山 励

団員 小林 将有

第 3 分団 団員 入川 伸郎

団員 宮内 龍真

団員 戎田 裕司

団員 砂野 順一

団員 宇都宮真一

第 4 分団 団員 河野 真範

団員 大政 勇二

団員 三好雄一郎

第 5 分団 団員 上森 真一

団員 大澤 稚弘

第 6 分団 団員 日野 雅文

団員 佐々木 洋

団員 渡部 翔

第 7 分団 団員 篠原 知臣

団員 垂水 啓悟

第 8 分団 班長 木下 幸治

団員 重松 和人

第 9 分団 班長 谷田慎太郎

< 優良班表彰 > (他の模範となる班)

宗意原班 本村班 徳丸班

東古泉班 上高柳班 西古泉班

< 特別表彰 > (伊予地区操法大会出場)

第 2 分団 第 5 分団 第 6 分団

▶纏会長感謝状

中川原班

▶日本消防協会長表彰 (2 月受賞)

< 精績章 >

第 5 分団 分団長 水口 哲司

< 勤続章 >

本 団 副団長 嘉村 重雄

第 3 分団 分団長 岡田 裕二

第 9 分団 分団長 大川 誠



新春を祝って

平成 30 年「新春年賀のつどい」

「平成 30 年新春年賀のつどい」は 1 月 4 日、文化センターで開催され、300 人以上が参加しました。

年頭のあいさつで岡本町長は、助走期間の 1 年目を経て 3 年目を迎える町政を三段跳びに例え、「今年は、『ステップ』の年として、これまでの取り組みを着実に一歩一歩進めていきたい」と抱負を語りました。

この後、参加者はあいさつを交わして新年を祝い、親睦を深めていました。



⑥代表あいさつで決意を述べる ⑦華やかな振袖で記念写真 ⑧特技披露するぞなもし。みんなで歌う



レタスの消費拡大を目指して

特産「レタス」をトップセールス

松前町産レタスの消費拡大を図るため、岡本町長は 12 月 21、22 の両日、JA 松山市レタス部会相原啓司部会長、JA 松山市岡田明夫常務らと奈良中央青果を訪れました。

青果場では、市場関係者に松前町産レタスの生育状況を話し、トップセールス。2 月上旬に最盛期を迎えるレタスの安全性やおいしさを PR しました。

レタスは、5 月上旬ころまで県内の市場にも出荷されます。



(写真左から)岡田常務、岡本町長、相原部会長、重川鐵副部会長



20 歳の門出を祝って

平成 30 年成人式

「平成 30 年成人式」は 1 月 7 日、文化センターで開催され、対象者 334 人のうち 252 人が出席しました。

今回の成人式のテーマは、「決意新たに光へ向かって」です。参加者が 20 歳を節目に決意を新たにできるよう、実行委員がさまざまなイベントを企画。小・中学校時代の「思い出のアルバム」の上映や抽選会「Selection of destiny」のほか、新たな試みとして校区ごとに特技を披露する「特技披露するぞなもし」を行いました。新成人は、友人や小・中学校時代の先生と昔を懐かしんだり、みんなで歌ったりして、20 歳の門出を祝いました。

結びには、新成人を代表して平田ことのさん＝神崎＝が「決意を新たにし、輝かしい未来へ進んでいきたい」とあいさつ。力強く大人への一歩を踏み出しました。



地球に優しいエネルギーを学ぶ 新エネルギー教室

県主催の「新エネルギー教室」は12月19日、松前小学校6年生を対象に行われました。

教室では、お笑い芸人「フルコンタクト」がユーモアを交えながら再生可能エネルギーの種類や長所・短所を説明。その後、児童たちは小型風力発電機の羽根を作って発電させ、ミニカーに充電してどれだけ長く走るか競いました。児童たちは、エネルギーを生み出す仕組みを学ぶだけでなく、大変さも体感していました。

④再生可能エネルギーについて学ぶ ⑤風を送って発電させる



人権の花と心を育てたよ 人権の花運動「花の贈呈式」

「人権の花運動」花の贈呈式は12月20日、古城幼稚園で行われました。

この運動は、園児が育てた花を施設などに届けることで、人権の輪を広げる取り組みです。今年は、古城幼稚園の園児が大切に花を育て、町内の金融機関、商業施設の関係者などに手渡しました。受け取った皆さんは、「大切に育てます」とにっこり。人権だけでなく、笑顔の輪も広がっていました。

④花を植えて育てる ⑤みんなで記念写真「大切に育ててね」



ようこそ、まさき町へ まつまえ・まさき姉妹都市ふれあい交流事業

姉妹都市である北海道まつまえ町の児童10人が、ふれあい交流事業の一環として、12月26日から28日まで本町を訪れました。

夏にまつまえ町で交流を行っている児童たちは、5カ月ぶりの再会に大喜び。初日は夕食に、まさき町の特産である麦味噌を使った「松前つけ麺」をみんなで食べて、交流を深めました。

2日目は、松山城見学や砥部焼き絵付け体験を行った後、青いピッチでホッケーを体験。さまざまな活動と一緒に楽しみ笑い合った後、みんなで宿泊しました。

最終日は、道後を散策し、坊ちゃん列車に乗った後、お別れとなる松山空港へ向かいました。3日間、松前町をはじめ、愛媛県の文化や食に触れ、かけがえのない体験をして友情を深めた児童たち。住所を交換し、「また会いましょう」と握手を交わして再会を約束していました。

本年度の交流事業はこれで終了となりますが、1,500キロメートル離れた児童たちの交流は、これからも続いていきます。



⑥松山城見学。刀の重さを体験する ⑦砥部焼絵付け体験。どんな絵にするか相談し合う



④ホッケー場で記念撮影 ⑤一緒に宿泊。枕を並べる ⑥最終日、道後にて。すっかり意気投合して楽しい時間を過ごす



⑥クイズで選挙に関する知識を深めた ⑦開票作業も体験 ⑧実際の機材を用いて投票。自分の選んだ候補者に一票を投じる



松前中学校で模擬選挙 選挙啓発講座

県と町の選挙管理委員会は12月20日、松前中学校で、3年生を対象に「選挙啓発講座」を行いました。

この講座は、若年層の投票率低迷を踏まえ、政治参加の意識を高め、選挙制度の仕組みを知ってもらおうと開催したものです。

当日は、選挙管理委員会職員が立候補者役となり模擬討論会を実施。事前に配布された選挙公報を見ながら共感できる候補者を選び、模擬投票を行って一票を投じました。

投票後は、すぐに開票し、みんなで開票の流れを学びました。参加した松本海璃さんは、「選挙への関心が高まりました。選挙権を得たら投票に行きたい」と話し、政治参加への意欲を高めていました。



④歓喜の歌声を響かせるソリストと第九合唱団 ⑤演奏会に花を添えた伊予高等学校吹奏楽部の演奏 ⑥会場を盛り上げた4人のソリスト



歓喜の歌声 高らかに 2017 松前町第九演奏会

「2017 松前町第九演奏会」は12月23日、文化センターで開かれ、小学生から80代まで約250人の松前町第九合唱団が高らかな歌声を響かせました。

この演奏会は、町内を中心とする音楽愛好者が平成21年に始めた手作りの演奏会です。伊予高等学校吹奏楽部の演奏に合わせ、藤岡葉子さん、國廣由佳さん、八木徹雄さん、大森いちえいさんの4人のソリストと合唱団が、歓喜の歌声を響かせました。ソリストの高らかな声に団員が歌声を重ねると、その美しいハーモニーに会場からは惜しめない拍手が送られました。

来年の10回の節目を前に、実行委員会の麻生美智子さんは、「時の流れを感じています。応援してくださる方々に感謝をして、10周年を成功させたいと思います」と意気込んでいました。